

私たちの生活と安全・安心を支える港のはたらき —生活に密着した物資や緊急物資の輸送に効果を発揮！—

◇生活に欠かせない物資の輸送

茨城港は首都圏と北海道を結ぶ物流拠点としての役割を担っています。

○北海道航路で取扱っている貨物の紹介
北海道→茨城港：生乳、野菜、水産物、紙など
茨城港→北海道：日用品、野菜、輸送機械など

○北海道航路は週31便就航しています

常陸那珂—苫小牧 1日2便（日曜除く）

大洗—苫小牧 1日2便（日曜除く）

日立—釧路 1日1便

震災時は、全ての航路が再開するまでに3カ月を要し、物流に影響を及ぼしました。

○約7割が北海道航路の貨物が占めています

茨城港全体の取扱貨物量
(平成26年)

29,002千トン

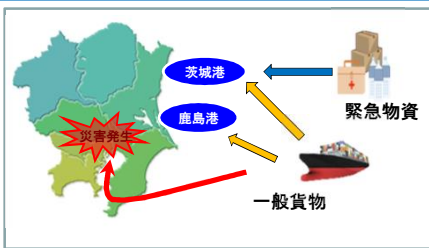
7割

北海道航路の取扱貨物量
(平成26年)

20,524千トン

◇災害時における緊急物資の輸送

茨城の港は県内、北関東などへの緊急物資の輸送や、首都圏における物流のバックアップ機能の役割を担っています。



首都直下地震などにより、京浜港が被災した場合、茨城港・鹿島港から緊急物資を輸送でき、首都圏における物流のバックアップ機能としての役割も期待されています。



・現在、県では、茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区において、耐震性能を強化した水深12m耐震強化岸壁の整備を進めています。(平成28年3月末完成予定)

県内の耐震強化岸壁の数 震災前 1カ所 → 平成28年 4カ所

〔茨城港常陸那珂港区〕

震災後の耐震強化岸壁

震災4日後から利用再開

震災時の被災状況
(北ふ頭地区)

水深9m岸壁
水深7.5m耐震強化岸壁
水深12m耐震強化岸壁
(平成28年3月末完成)

※耐震強化岸壁とは、地震に耐えるよう耐震性能を強化した岸壁のことです。



北関東自動車道の全線開通(H23.3.19)により県内をはじめ、首都圏や北関東地域に対して商品をすばやく配達でき本県及び近隣諸県の生活に大きく貢献しています。